慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	法学研究第八十四巻(平成二十三年自一号至十二号)総目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	2012
Jtitle	法學研究 : 法律・ 政治・ 社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.85, No.3 (2012. 3) ,p.193- 207
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-20120328-0193

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

法学研究　第八十四巻（平成二十三年　自一号　至十二号）　総目次

論説

	号	頁	
冷戦を再考する	一	一	赤木完爾
情報化の進展とコミュニティ（論）の変容 ―国民国家との関連から―	一	二九	大石　裕
人口論の変遷	一	六三	田所昌幸
国際連合創設への設計図 ―チャールズ・ウェブスターと世界秩序の構想、一九四二年―四三年―	一	九一	細谷雄一
「トランス・タスマン相互承認取り決め」の法的性格	一	一二九	庄司克宏
日本のパブリック・ディプロマシー ―ジャポニスムからネオジャポニスムへ―	一	一五三	渡邊啓貴
EUの加盟基準と市民社会	一	一七五	明田ゆかり

アイルランドとEU ……一 二〇三 小久保康之
―歴史的展開とリスボン条約の批准―
欧州統合過程と国民投票 ……一 二三九 吉武信彦
―デンマークの事例を中心として―
単極システムと双極システムにおける国際公共財の需給関係 ……一 二五九 石井貫太郎
―クールノー均衡分析によるネオ・リアリズム解釈とその課題―
多様性と統合のEU環境政策 ……一 二七九 和達容子
―EU・加盟国関係を中心に見た試論―
EU文民的安全保障政策の成立と発展 ……一 三〇三 小林正英
ウクライナのEU・NATO加盟問題 ……一 三三九 東野篤子
裁量的政策調整と共同体方式の間の理論・実証上の差異に関する批判的考察 ……一 三七九 井上淳
航空自由化と政策アイディア ……一 四〇一 河越真帆
―ECにおける「規制緩和なき自由化」アイディアの受容過程―
NATO・EU協力の新たな課題 ……一 四二五 鶴岡路人
―棲み分けから協働へ―
欧州統合史における多国間外交の経験蓄積とサミット誕生の歴史 ……一 四五一 鈴木均
―日EC貿易摩擦交渉を事例として―
西ドイツとEEC／EURATOMの形成 ……一 四七一 金子新
―「欧州」と「大西洋」の路線対立、一九五四―一九五七―
フランス国際関係史「学派」と理論をめぐる問題 ……一 四九九 宮下雄一郎

EU対外関係における文化 ……一 五二九 譲原瑞枝
—対地中海諸国政策を中心に—
The EU and East Asia and ASEM ……一 五九六 GILSON, Julie
Progress and Limitations of European Foreign and Security Governance ……一 六二二 KIRCHNER, Emil J.
Emerging Japan and Competing Print Market: ……一 六五〇 YAMAMOTO, Nobuto
Japan's Shadow in the 1930s Dutch Indies
現象と文法 ……二 一 荒畑靖宏
—ハイデガーとウィトゲンシュタイン—
生活史の「個性」と「時代的文脈」……二 二五 有末賢
『平生釟三郎日記』にみる大正期一実業家の時代精神 ……二 五三 安西敏三
英国における文化統治の手段としての公共サービス放送の形成 ……二 八三 飯塚浩一
対幻想の含意 ……二 一〇七 石川晃司
「コミュニティ」の多様化とコミュニティ・メディア ……二 一三一 大石裕
第一次世界大戦と日本陸軍 ……二 一五七 片山杜秀
—物量戦としての青島戦役—
クローチェにおける「文学」概念の形成（一九三五年から一九四一年）……二 一七一 倉科岳志
共同抵当権の「三つのルール」、その相互関係の解明 ……二 一九三 斎藤和夫
—民法三九二条論—
原子化・私化・個人化 ……二 二三一 澤井敦
—社会不安をめぐる三つの概念—

越境的社会関係資本の創出のための外国人住民支援 …… 二 二七九 塩原良和
―社会的包摂としての多文化共生に向けた試論―
カルヴァンの為政者観 …… 二 三〇七 田上雅徳
リュシアン・ジョームのリベラリスム論とその現代的射程 …… 二 三三七 堤林剣
―コンスタン論を手掛かりとして―
「アウトサイダー・アート」論考 …… 二 三七五 西野真季
―「天才の民主化」の理想と現実―
民主的ガバナンス論への道程 …… 二 四一五 萩原能久
ダーレンドルフの「制度的」自由主義 …… 二 四四九 檜山雅人
一六世紀イングランドにおけるナショナリズムの萌芽 …… 二 四七一 深澤民司
―ライア・グリーンフェルドの研究をめぐる一考察―
住民訴訟の審理に関する一考察 …… 二 五〇三 藤原淳一郎
―砂川政教分離最高裁判決を中心として―
ヴァイマル・バウハウスにおける音楽教師ゲルトルート・グルノウ …… 二 五五五 真壁宏幹
―「アメリカ的なもの」と「インド的なもの」のあいだで―
心情倫理と責任倫理の「相補性 Ergänzung」 …… 二 六〇三 柳父圀近
―『職業としての政治』の思想史的背景にふれて―
欧州統合過程とナショナルな政党政治 …… 二 六三三 吉田徹
―『欧州懐疑政党』を中心に―
福沢諭吉の憲法論 …… 三 一 小川原正道
―明治憲法観を中心に―

在奉天総領事　小池張造 …… 三　二七　井上勇一
—在奉天総領事がみた満州問題—
「国際法の完全性」（一） …… 四　一　明石欽司
—その理論史と概念整理—
福沢諭吉の天皇論 …… 四　三　小川原正道
—構造・展開・反響—
戦争と音楽 …… 五　一　池井優
—明治維新から〝大東亜戦争〟まで—
福沢諭吉における「外交」 …… 五　三五　小川原正道
国際法の完全性（二） …… 五　八一　明石欽司
—その理論史と概念整理—
近代日本における社会学の草創と福沢諭吉の社会学思想の再考察 …… 六　一　川合隆男
ハワード・シティズンシップ・テストからラッド・シティズンシップ・テストへ …… 六　三　関根政美
—多文化社会オーストラリアのガバナンス—
生と死のライフヒストリー …… 六　七　有末賢
—相互・循環・一回性—
現代日本の世論とメディア政治 …… 六　一〇七　大石裕
「アルスター植民」再考 …… 六　一三七　松井清
—スコットランド系入植者のエスニシティ—
情報社会と忘却権 …… 六　一六一　伊藤英一
—忘れることを忘れたネット上の記憶—

産業人類学、都市人類学、超国家の人類学をつなぐもの ……六 二〇九 和崎春日
―滞日アフリカ人の生活動態から十時嚴周の「混乱と境界侵犯の人類学」を見る―
水都再生への序論 ……六 二三五 田中重好
諏訪信仰の太陰的要素序説 ……六 二七九 福島邦夫
クワメ・ンクルマの政治思想 ……六 二九七 阿久津昌三
―『わが祖国への自伝』を読む―
中国都市の「世界都市化」をめぐる一考察 ……六 三三三 熊田俊郎
―北京、上海、および広州を事例として―
多文化社会の福祉コミュニティ形成 ……六 三六一 三本松政之
性役割分業意識の非対称な変容 ……六 三八九 吉村治正
―測定誤差の事例報告―
中国の都市と農村における「社区建設」 ……六 四一三 南 裕子
―中国におけるコミュニティ形成の文脈―
都市改造に伴う立ち退き住民の生活変容と公共領域 ……六 四四一 李 国慶
労働から見る中国社会の変容 ……六 五〇〇 中村良二
おしゃべりなロングテールの時代 ……六 五三〇 熊坂賢次
―東京ガールズのネットコミュニティ解析―
山崎由佳
階層的地位と結婚プレミアム・ペナルティ ……六 五五四 鹿又伸夫
「国際法の完全性」（三） ……七 一 明石欽司
―その理論史と概念整理―

共和党穏健派の思想と動向 …… 七 三三 西川 賢
―一九五二年の予備選挙を中心として―
「国際法の完全性」（四・完） …… 八 一 明石 欽司
―その理論史と概念整理―
分析的政治哲学の系譜論 …… 八 三五 松元 雅和
仮釈放要件と許可基準の再検討 …… 九 一三 太田 達也
―「改悛の状」の判断基準と構造―
共謀共同正犯における共謀概念 …… 九 八七 亀井 源太郎
ヨーロッパにおける受刑者移送制度の動向 …… 九 一二七 フィリップ・オステン
―ドイツの状況を手がかりに―
量的過剰について …… 九 一七三 佐藤 拓磨
最近の刑法学の動向をめぐる一考察 …… 九 二一一 井田 良
裁判員裁判における評決について …… 九 二三七 平良木登規男
ドイツにおける青少年社会環境と青少年保護 …… 九 二六七 安部 哲夫
保安監置制度の正当化について …… 九 二九一 飯島 暢
―法的強制としての自由の剝奪の可能性？―
現代取引社会における詐欺罪の罪質と処罰範囲 …… 九 三三一 上田 正和
建造物損壊罪をめぐる問題について …… 九 三五七 内海 朋子
商品先物取引と詐欺罪 …… 九 三七九 大山 徹
スウェーデン「拘禁法」の制定について …… 九 四一九 坂田 仁

刑法一七五条及び児童ポルノ禁止法と表現の自由 ……九 四七 島岡まな
―フランス刑法から学ぶこと―
フランスにおける行刑法の制定と刑罰の調整の理念と現実 ……九 四八一 末道康之
スポーツを対象とする違法賭博 ……九 五一七 谷岡一郎
―ブッキング・ビジネスの現状および合法化への問題点―
日本国外における犯罪の被害者等に対する支援について ……九 五四五 冨田信穂
被害者補償制度の世界的動向 ……九 五六九 諸澤英道
―「損害賠償補塡型」から「被害回復型」への転換―
国民参与裁判制度施行三年の評価と展望 ……九 六〇三 趙 均錫
韓国における修復的司法の発展と現状 ……九 六四五 金 容世
Is Restorative Justice a Viable Option in Crimes of Violence ……九 七三〇 Ezzat A. Fattah
国際政治におけるガバナンス ……十 一 田所昌幸
―「棲み分けによる共存」の意義と限界―
「立法者 législateur」と「正す者 justicier」：盛期中世フランスにおける上訴制と王権 ……十 三五 薮本将典
―ルイ九世とポワトゥー伯アルフォンスの司法改革令を中心に―
在奉天総領事 加藤本四郎 ……十 六五 井上勇一
―在奉天総領事のみた満州問題―
片岡健吉における信仰と政治 ……十一 一 小川原正道
通信法制と放送法制の融合 ……十二 一 青木淳一
―その限界と到達点―

債権者代位権擁護論 ……十二 三三 池田真朗
—債権法改正における立法論のあり方と学説の作った虚像—
不動産投資法人（J-REIT）のガバナンスにまつわる実務上の諸問題に関する一考察 ……十二 二一九 石橋源也
民事司法改革の実現を目指して ……十二 二四五 今井和男
—債務名義の執行力強化—
ニーチェの永遠回帰論とマーラー ……十二 二六九 岩下眞好
—交響曲第三番の歌詞をめぐって—
司法研修所の要件事実論に代わる「新しい要件事実論」の構築のために ……十二 二〇三 加賀山茂
マンハイムにおける「革命的意識」について ……十二 二四一 蔭山宏
—『イデオロギーとユートピア』を中心に—
借地上建物への抵当権設定における担保価値維持義務 ……十二 二八一 片山直也
—最高裁第一小法廷平成二二年九月九日判決を契機として—
株式会社の参入拡大と遵法・統治・説明責任の実践 ……十二 三三一 加藤修
共有著作権の権利処理に関する一考察 ……十二 三三五 金井高志
—共同著作物と共有著作物の差異の明確化のために—
契約における錯誤と情報提供義務 ……十二 三七一 鹿野菜穂子
—錯誤規定をめぐる近時の潮流（PECL、PICC、DCFR）と日本法—
妨害排除請求権に基づく原状回復の範囲 ……十二 四〇五 河原格
二重売買と危険負担 ……十二 四三五 北居功
—危険負担制度と契約解除制度の競合—
平成二三年改正特許法における冒認出願・共同出願違反と真の権利者の救済 ……十二 四七三 君嶋祐子

イギリス倒産法における管財機関の生成と信託理論 ……十二 五〇五 工藤敏隆
フルペイアウト方式によるファイナンス・リース契約における倒産解除特約の効力 ……十二 五四九 櫻井一成
—最高裁平成二〇年一二月一六日第三小法廷判決（民集六二巻一〇号二五六一頁）について—
イギリスにおける金銭支払を命ずる判決の強制執行 ……十二 五七五 島田真琴
EU基本条約の自由移動規定と国際私法 ……十二 六〇一 庄司克宏
—EU法の視点からの一考察—
ドイツ管理共同制における家財道具の物上代位規定 ……十二 六三一 水津太郎
—生成・展開の構造と基礎—
組合と権利能力なき社団における共有論の可能性 ……十二 七一七 平野裕之
—財産群法理と団体的拘束原理—
抵当権の追及効と対抗問題の射程 ……十二 七六一 松尾弘
留置権の「対抗可能性」に関する一考察 ……十二 七八五 武川幸嗣
連結点の基礎となる事実と弁論主義 ……十二 八一一 山田恒久
判例研究の目的 ……十二 八三九 六車明
政府系ファンドと行動規範をめぐる諸問題 ……十二 八六一 渡井理佳子
国際貸付契約書に見る担保手法についての一考察 ……十二 九三八 山根眞文
—主として英米法の担保制度を通して—
トーマス・マンの『非政治的人間の考察』について ……十二 九六〇 坂口尚史
—「正義と真理に反して」の章を中心に—
New Religions in Japan: ……十二 九七二 ASAI, Shizuo
A Case Study of Oyamanezunomikoto-Shinjikyokai

資　料

「オーストラリア二〇〇六年家族法制改革評価報告書（要約版）」（オーストラリア連邦政府・オーストラリア家族問題研究所、二〇〇九年一二月）（翻訳）……三　五五　犬伏由子／監修　駒村絢子／訳

充当資産（patrimoine d'affectation）の承認による個人事業者の保護（翻訳）……四　六五
—フランスにおける有限責任個人事業者（EIRL）に関する二〇一〇年六月一五日法—　マリ＝エレーヌ・モンセリエ＝ボン　片山直也／訳

ドイツ連邦通常裁判所二〇一〇年六月二五日判決（Putz事件）……五　一〇九　神馬幸一
—人工的栄養補給処置の中止に関する新しい判例動向—

米国宇宙法の発展と三つの長期的課題（翻訳）……八　六九　ジョアンヌ・イレーネ・ガブリノヴィッツ　青木節子／訳
—最初の半世紀を振り返って—

第一回総選挙・静岡県第五区における選挙戦……十一　三一　上野利三
—慶應義塾出身波多野承五郎を中心に—

判例研究

〔商法〕……商法研究会

五一一　反対株主による株式買取請求における公正な価格（日興コーディアル株式買取価格決定事件）　三　二九　岡田昌也

五一二　株式買取請求における「公正な価格」　四　九三　長畑周史

五一三　平成一八年改正前証券取引法一五八条の、有価証券の売買のため偽計を用いたこと、および有価証券の相場の変動を図る目的で偽計を用いたことに当たるとされた事例―ペイントハウス事件―　五一三　杉田貴洋
五一四　株主総会の決議を経ずに支払われた役員報酬について事後に株主総会の決議を経た場合における当該役員報酬の支払の効力　七　六三　黄清溪
五一五　国際海上物品運送法二〇条の二第一項にいう「荷受人」の意義―ジャイアントステップ号事件　八　一〇三　笹岡愛美
五一六　共同相続株式の権利行使者の指定と事前協議の要否　十　八九　宮島司
五一七　株主総会の否決決議の取消しを求める訴えが却下され、可決決議の取消しを求める訴えの請求が棄却された事例（ＨＯＹＡ事件）　十一　五九　吉川信將

〔最高裁民訴事例研究〕……民事訴訟法研究会
四二六　平二二1〔民集六四巻四号一二三五頁〕　三　一四三　山本和彦
四二七　平二二2〔民集六四巻一号一頁〕　五　一四四　三木浩一
四二八　平二〇5〔民集六二巻一〇号二五六一頁〕　七　一五五　中島弘雅

〔下級審民訴事例研究〕……民事訴訟法研究会
62　特定の動産引渡請求権に基づき、当該動産のみの引渡しを求める旨明示した上、債務者が第三債務者である銀行に対して有する貸金庫の内容物引渡請求権を差し押さえることの可否
東京高裁平成二一年四月三〇日決定〈平成二一年(ラ)第五七〇号〉、動産引渡請求権差押命令申立却下決定に対する執行抗告事件、判時二〇五三号四三頁、金法一八八七号一四〇頁　四　一二　工藤敏隆

訴え提起前の証拠保全としてなされた診療録等の検証物提示命令の申立てに対し、黙示の却下決定により検証期日が終了されたものとし、検証期日終了後になされた即時抗告を不適法と判断した事例
仙台高裁平成二二年六月二三日第三民事部決定（仙台高裁平成二二年㈲第六二号）
一審仙台地裁平成二二年三月一九日決定、検証物提示命令申立却下決定に対する即時抗告事件、金融・商事判例一三五六号二三頁 …… 八 三四 三木浩一

63

〔民集未登載最高裁民訴事例研究〕 …… 民事訴訟法研究会

名古屋市議会の会派が市から交付された政務調査費を所属議員に支出する際に各議員から諸経費と使途基準中の経費の項目等との対応関係を示す文書として提出を受けた報告書及びこれに添付された領収書が民訴法二二〇条四号ニ所定の「専ら文書の所持者の利用に供するための文書」に当たるとされた事例
文書提出命令に対する抗告棄却決定に対する許可抗告事件（平成二二年四月一二日最高裁第二小法廷決定）裁判所時報一五〇六号一頁、判例時報二〇七八号三頁 …… 十 一〇〇 河村好彦

27

痴漢の虚偽申告を理由とするXのYに対する損害賠償請求訴訟において、目撃者が見付からない場合に、これに準ずる立場にある者の証人尋問を実施せず、Yの供述の信用性を肯定して、Xが痴漢行為をしたと認めた原審の判断に違法があるとされた事例
損害賠償請求事件　最高裁平一九年㈲第一八七八号、平二〇年一一月七日第二小法廷判決（裁判集民事二二九号一五一頁、判例時報二〇三一号一四頁＝判例タイムズ一二八八号五三頁） …… 十一 七一 三上威彦

28

特別記事

田中俊郎教授略歴・主要業績 …… 一 五五三
蔭山宏教授略歴・主要業績 …… 二 六七三
金忠植君学位請求論文審査報告 …… 三 一六五

小林正英君学位請求論文審査報告　三　一七四
植田麻記子君学位請求論文審査報告　四　一三三
藤森智子君学位請求論文審査報告　四　一四二
榎本桃也君学位請求論文審査報告　五　一六一
河越真帆君学位請求論文審査報告　五　一七一
大海渡桂子君学位請求論文審査報告　五　一八三
横大道聡君学位請求論文審査報告　五　一九一
十時嚴周先生略歴・主要著作目録　六　四六三
慶應義塾大学法学部法学研究所講演会
「債権法改正の問題点―中間論点整理の評価と今後の展望―」　七　九九
小田義幸君学位請求論文審査報告　七　一五一
崔慶原君学位請求論文審査報告　七　一六四
金文静君学位請求論文審査報告　七　一七一
宮澤浩一先生略歴・主要業績　九　六七九
米津昭子先生追悼記事　十　一三三
川上洋平君学位請求論文審査報告　十　一五三
星野昌裕君学位請求論文審査報告　十　一七〇
平成二三年度慶應法学会シンポジウム「ガバナンス概念をめぐって」　十一　八九
内山正熊先生追悼記事　十一　一三一
斎藤和夫教授略歴・主要業績　十二　九一二

追悼文

宮澤浩一先生追悼の辞　九一　関　建植
宮澤浩一先生追悼の辞　九五　ハンス＝ハイナー・キューネ
宮澤浩一先生追悼の辞　九二　ヤン・グロテア